

氏名	加藤 泰之
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博乙第 3434 号
学位授与の日付	平成12年3月25日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	慢性関節リウマチ膝に行った鏡視下滑膜切除術のMRIによる評価
論文審査委員	教授 平木 祥夫 教授 榎野 博史 教授 田中 紀章

学位論文内容の要旨

本研究は、慢性関節リウマチ (RA) 膝に対して行った鏡視下滑膜切除術 (A-S術) の術後成績の客観的評価に、スコア化したMRI上の滑膜肥厚の評価が有用かどうか検討したものである。対象は、1987年のアメリカリウマチ学会診断基準でRAと診断した25例、30膝 (男性3例3膝、女性22例27膝) で、術前のLarsen-DaleのX線分類は、grade IからIVがそれぞれ8膝、13膝、6膝、3膝であった。MRI上の滑膜肥厚はTakeuchiらの分類 (MRI評価点) を、臨床症状は日本整形外科学会RA膝治療成績判定基準 (JOA score) を、RAの活動性はCRPを用いて評価した。MRI評価点、JOA score、CRPはいずれも術前に比べ追跡時 (術後平均19ヶ月) には有意に改善していた。また、追跡時MRI評価点が5点以下の症例は追跡時MRI評価点が6点以上の症例に比べ、JOA scoreの改善度が高く、追跡時のCRPが低かった。A-S術の客観的評価にMRI評価点の有用性が示された。

論文審査結果の要旨

本研究は膝関節滑膜炎に対して鏡視下滑膜切除術 (A-S術) を施行した慢性関節リウマチ (RA) 25例30膝について術前及び追跡時の滑膜肥厚の程度をMRIによってスコア化して評価し、X線grade、臨床症状 (JOA score)、CRPと比較検討した臨床的研究である。その結果、MRI評価点、JOA score、CRPはいずれも術前に比べ追跡時には有意に改善していたこと、追跡時MRI評価点が5点以下群は6点以上群に比べ、JOA scoreの改善度が高く、追跡時のCRPが低かったことを明らかにしている。これらはRA膝のA-S術後成績の客観的評価におけるMRIの有用性を示したものであるとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。